

# なきごえ



1973

3

大阪市  
天王寺動物園協会

# クロヒョウの人工哺育

三浦正明  
野口秀高

昨年11月2日のことでした。平常通り、猛獣舎（インドヒョウ、クロヒョウ、ピューマ収容）へ入舎すると、幼獣のなき声が聞えました。出産予定の妊娠もなく、その前に出産したピューマの子が鳴いて居るのだろうと気にもせず、動物を運動場へ出していきますと、クロヒョウの牝が外へ出る気配もなく、係員を嚇かしている様子でした。

寝室内は薄暗く、確認はできませんが、腹の下で何か動いている様です。暫らく、遠くの方から観察して居ますと、2頭の幼獣が動いて居ました。

母獣を興奮させず、食子する恐れがあるので、そのままにして観察する事にしました。

その後、母獣を隣室に移動して、敷材を入れ、暗幕を張りました。隣室の母獣は少し興奮気味ですので、す早く作業を終らせ、母獣を戻しました。

午後になっても、哺乳した様子もなく、幼獣も空腹と寒冷の為、なっていました。出来る限り自然哺育が望ましいので、幼獣の体力の限界まで、母獣に付ける事にしました。暗幕を張っているの

ので、中の様子は確認出来ず、幼獣の声のみで判断する事にしました。



## なきごえ3月号もくじ

- クロヒョウの人工哺育……………2・3
- 動物園グラフ……………4・5
- 動物記者の目(動物とは何であるか?)……………6
- 獣医室から……………7
- 動物園ニュース……………7



生後30時間を経て哺乳した様子がなく、幼獣の体力の限界と察し、人工哺育する事にしました。

収容した2頭の幼獣は体温も低下して、元気がありませんので、温熱板で加温、摂氏35度位に保温しました。2時間位すると、動き出し、乳を催促していますので、哺乳する事にしました。

調乳は肉食獣用人工乳を、温湯100ccに12グラム混ぜて、猫用哺乳器で、哺乳する事にしました。

最初は慣れぬ為、吸い付きませんので、口中へ少量流し込み哺乳しました。満腹したのか眠りました。

胎便の排泄がまだです。脱脂綿に温湯を浸して、肛門をマッサージして、排泄を促しました。

哺乳間隔は約3時間位でした。体重はおす500グラム、めす460グラムでした。哺乳も2~3日もすると上手に吸い、私の手をひっかきながら元気に哺乳していました。幼獣とはいえ、爪は鋭く皮膚にくい込み、痛く、動くとも哺乳を嫌うので、我慢していました。

哺乳も気が進むまで乳首を噛んだりして遊び、一回の哺乳時間も30分位要しました。哺乳に時間がかかりますので、乳を何回も温めながらの苦戦でした。2頭とも順調に発育、増体量も伸びて居ましたが、残念ながら、おすが生後12日目で死亡しました。

## 表紙の写真説明

“オオアリクイ”  
中央から南アメリカにかけてのジャングルにすんでいます。アリを食べるために、完全に適した体になっています。  
長い口と舌、強い前肢と爪、厚い毛とほうきのような尾などです。



解剖所見は臍帯炎で、腹水が多量溜まって居ました。残っためすは遊び相手を失い、しばらく食欲が減退しました。

1週間位で回復しました。生後28日目位から、哺乳器での哺乳を嫌う様になりましたが、離乳にはまだ早いので、根気よく時間を要して哺乳しました。

生後35日目、体重1500gの頃から馬肉ミンチを少量、ミルクに混ぜて給与しました。この頃になると、自力で便の排泄をするようになりました。屋外へ日光浴と運動をかねて出しますと、元気よく走り回っていました。

自然哺育では、生後90日目にもなると、近づく事が出来ませんが、人工哺育では、係員を母獣と思い、



足にからんだり、飛びついたり、服を噛んだりして遊んで居ます。一見遊びに見える動作も、野性では、狩をするのに必要な動作です。

最近、日増にクロヒョウらしい風格を呈しています。

当園には収容する場所もないので、いつかは他園へ嫁つぐ日も来る事でしょうが、出来る限り馴らして、このクロヒョウの動静を観察したいと思っています。  
(天王寺動物園飼育係)

表1

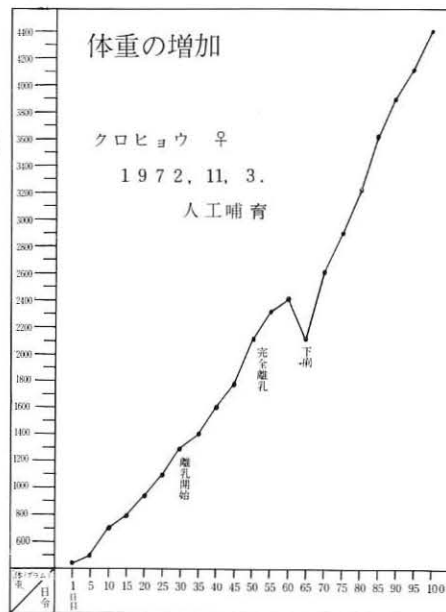


表2

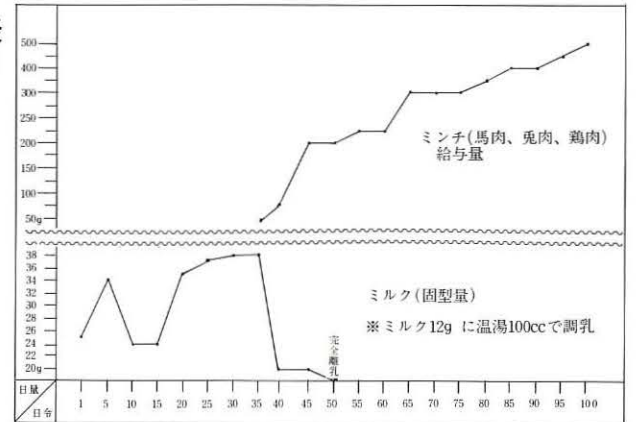


図1





↑トラ

今年の元旦生まれの文字通りトラの子。来年は私のエトだからはりきらなくちゃ!  
トラの放飼場も、一だんとぎやかになりました。

# 動物園グラフ

“とび出せ、春だ!!”

サイをはじめ、昨年から今年にかけて、づい分いろいろな動物が生まれました。この春には、これらの動物たちが立派に成長して、ほほえましい風景が、園内のそこそこに見られます。

今日はせいぞろいしたこれらの動物を、ご紹介します。



←サイ

生まれて1年2カ月たちました。そして、こんなに大きくなりました。父さんサイが入園したときも、こんな大きさだったなあー!



↑カバ

カバ一家も、この春は大変にぎやか。兄さんカバは、もうすっかり大きくなったので、養子に行く話もきまったし、私も屋外プールで、遊びたいなあー!



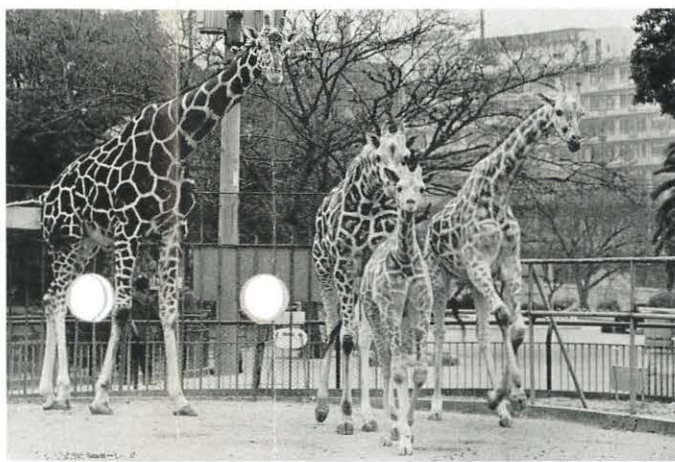
↑ライオン

エチオピアからやってきたライオンの二世。昨年生まれた姉さんは、人工哺育だったけれど、私たちは、母さんに育てられたのよ!



←インドゾウ

万博のときに入園したラニーちゃん。こんなに大きくなりました。このほどやっと先輩たちの仲間入りしました。生まれてはじめての水あびに、はしゃぎ回る。

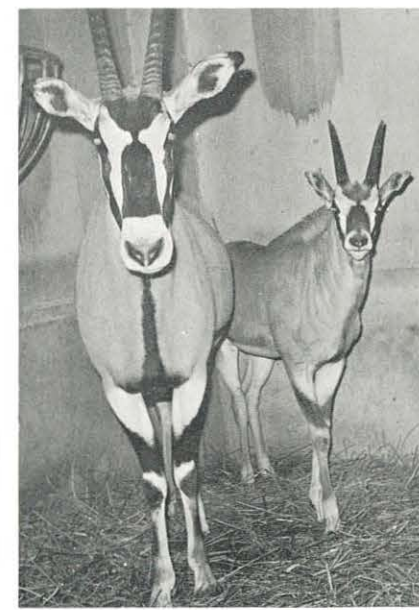


←キリン

新年早々、妹が病気で死んだのですが、姉さんの方は、とても元気です。春を迎えて、キリン一家は元気一ぱい

オリックス→

母さんオリックスは、とても長い角を持っていますが、私はまだ、こんなに短いので、もうすぐ長くなると思うよ!



## 1・2月の動物園日記

- 1/26. クロクビコウの足のうらに瘤ができたので、薬をのませて治療しています。
- 28. メンヨウが死産しました。
- 29. 子ゾウ舎の増築工事が完成しましたので、この日から、子ゾウを新らしい家にうつしました。
- 30. オオコウモリが、血便をしていましたので、治療しました。
- 2/1. 寒さのためか、トコツーカン、クロトキなどが、弱っていますので、手当をしています。

- 3. リカオンのおすが、足をいためたのか、びっこをひいていますので、手当をしています。
- 4. 2月の日曜としては、暖かったので、園内はかなりの人出でにぎわいました。
- 5. カニクイザルが死にました。キツネの交尾が見られました。
- 6. クロビョウとヒョウの交尾が見られました。
- 8. シュバシコウの8つの巣に、巣材を入れてやりました。春の産卵シーズンを前に、高い巣に柳の小枝を、たくさん入れてやりました。

- 8. ブラックバックめす1頭が、肺炎をおこして死にました。
- 10. ブラックバックのおすが、足のひづめが化膿していましたが、手当をしてやりました。イワトビペンギン4羽トビカモシカ1頭などが、入園しました。また、ピューマの子1頭と、コブハクチョウ2羽が、出園しました。
- 11. ゴリラのおすが、下痢をしましたので、手当をしています。また、チンパンジーにも、人間なみに風邪ひきのものが出ています。1月1日生まれのトラの赤ちゃんは、おすとめす

- と確認しました。
- 13. オオズルのおすが、足を傷めていますので、手当をしています。
- 15. ラクダ舎の棚が、フタコブラクダのおすのために、たおされてしまいましたので、応急修理をしてやりました。
- 18. キソウマが、軽い腹痛を起してしまいましたので、治療をしてやりました。

## 動物記者の目

動物とは何であるのか?

秋の空、とおく、天王寺の丘の上に、鱗雲が流れていた日、動物園の中庭で、エチオピアライオンのこどもが、走っていた。——と気障な文章で書き始めてみるのだが、その時、ふと「動物の生態を言葉で表現するのはむづかしいな。」と思った。

新聞には、実にひんばんに、動物園の動物たちが登場する。誕生、死亡記事、どこそこの動物園から何々がやってくる、e t c とー。そして、動物の生態を書く。

なかには、朝日の本多勝一記者の「きたぐにのどうぶつ」などの秀作があるが、動物を見、観察し、そして書くことは、ある意味で記者の独断によっている。××ちゃんがかわいそう、楽しそう—などと書くことは、ドグマであり、実は××ちゃんがかわいそうでも楽しそうでもない筈なのだ。

動物と人間との間に、確実にあるのはシンパサイズだけなのかもしれない。繋りがあるとすれば、太古から伝わる原始感情の中にしかない筈だ。

だから、××ちゃんがかわいそう、楽しそうと擬人化して動物を描写することは、人間の傲慢さというべきだ。ペット愛好者がその

最たるもの。彼は自らのペットに自らの「見果てぬ夢」を淡い感情でもって眺めているのだ。

こういう感情が集積されたところに、たぶん「動物園」がある。また、そういう感情に答えるものが、「動物園記事」というやつだ。

だが、再び「だが動物とは何か」という疑問が湧いてくる—。

最近あったひとつの事件が思い浮かぶ。東京・上野動物園から脱走したワシ君のことだ。中継テレビで大きな羽を開げ、うす汚れたスモッグの空を翔けめぐる、あのワシ君の姿には、どこか、人間たちに対する冷たい「拒絶」があるかのようだ。ワシ君は、こう叫んでいたかもしれない。「人間どもの感情で動物たちを見られてはたまらない」と。ワシ君は報復したのかもしれない。われわれのドグマに—。

ぼくらはワシ君の報復から、何を反省すればよいのか、考えてみる必要があるだろう。

中庭でかけまわっていたエチオピアライオンと、あのワシ君とは同じだ。ぼくらは心の中で「もっと遠くまで翔けて行け」と彼らに声援を送っていたのかもしれない。

(S. F)

## 動物園ニュース

### 〔獣医室から〕

松岡恵爾

輸入サルご用心!!にお答え、(毎日新聞、2月6日夕刊)  
サルが、人間に感染する細菌や寄生虫を、多く保有していることについて、サルをペットとして飼っておられる方々から、心配の余り、問い合わせが殺到しましたので、正しく理解をして戴くために、本誌をかりてお答えします。  
私共、よい仔の集る施設を預かるものとしては、動物の健康管理と公衆衛生の立場から、これらのことについては、いち早く着目して、特に36年以降入園するサルに対しては、万全を期

### ☆ 来年度の主な事業計画

48年度の新らしい動物園の事業計画として、ファミリー広場とお弁当広場、緑陰路の新設として、約2,100万円の予算が認められた。

これまで、動物舎の新築ばかりであったのが一応一段落したということで、今度は、入園者サービスに、一段と力を入れることになったものです。

園内は、これまで緑が少なく、すわってお弁当も広げられる芝生もなかったのですが、園内の一部をこうした広場にして、

## 明日のくらしのコンサルタント



アベノ店



上本町店



奈良店

3月14日 奈良近鉄百貨店オープンノ近鉄西大寺駅前に登場した日本で初の本格的なショッピングセンターの中で新しい感覚のファミリーデパートとして 多彩な催しをくりひろげます

つねに新しいくらしのイメージをお届けする近鉄百貨店 品揃えは勿論のことゆきとどいたサービスで 皆さまをお迎えいたします 身近かなコンサルタントとしてぜひご利用ください



TEL. アベノ(06)621-1231 / 上本町(06)779-1231 / 奈良(0742)33-1111

### 動物好きのみなさんにおねがい

「キーウイ」のエサにミミズをください!!  
万国博のとき、ニュージーランドからおくれた「キーウイ」のエサになるミミズを動物園では、園内で養殖していますが、今年は繁殖が少なくて困っています。どうか、ミミズを寄贈(きぞう)して下さるか、ミミズのたくさんいるところを、下記のとこまで教えて下さい。

(大阪市天王寺動物園 TEL 771-8401~2)

(動物園主査)

に濃染しているとは思われません。人間に近い動物なので、人との生活が始まって、感染している場合の方が、多いのではないかとされます。これらは、捕獲され環境の急変に伴い、体力が一時低下したときに、感染するようです。

ペットとして、サルを飼育するには、やはり飼育する人が十分気を付けてやることは、人間共の責任です。獣医さんに、十分健康診断を受けて下さい。

# 動物記者の目

動物とは何であるのか?

秋の空、とおく、天王寺の丘の上に、縹雲が流れていた日、動物園の中庭で、エチオピアライオンのこどもが、走っていた。—と気障な文章で書き始めてみるのだが、その時、

最たるもの。彼は自らのペットに自らの「見果てぬ夢」を淡い感情でもって眺めているのだ。

こういう感情が集積されたところに、たぶん「動物園」がある。また、そういう感情に答えるものが、「動物園記事」というやつだ。

## 子どものための 動物のふしぎな世界

●全4巻 春・夏・秋・冬

- 園児から小学校低学年向きです。
- オールカラー160頁・B5判・上製本
- 各巻定価1,300円 / セット価5,200円

子どもに動物に対する深い興味と、親しみを与える本書は、春・夏・秋・冬の季節別に活動する動物の生態の不思議さや、人と動物との心あたたまるふれ合いなどのエピソードを集めたものです。きっと子どもと動物たちの間にすばらしい世界がはじまるでしょう。

●お近くの書店・百貨店で求めください。 **ひかりのくに**



かない筈だ。

だから、××ちゃんはかわいそう、楽しそうと擬人化して動物を描写することは、人間の傲慢さというべきだ。ペット愛好者がその

中で「もっと遠くまで翔けて行け」と彼らに声援を送っていたのかもしれない。

(S. F)

# 〔獣医室から〕

松岡恵爾

輸入ザルご用心!!にお答え、(毎日新聞、2月6日夕刊)  
サルが、人間に感染する細菌や寄生虫を、多く保有していることについて、サルをペットとして飼ってられる方々から、心配の余り、問い合わせが殺到しましたので、正しく理解をして戴くために、本誌をかりてお答えします。

私共、よい仔の集る施設を預かるものとしては、動物の健康管理と公衆衛生の立場から、これらのことについては、いち早く着目して、特に36以降入園するサルに対しては、万全を期して検査や治療を行なって来ましたので、それらの成績に基づいてまとめました。

(赤痢) たしかに17%程の保有率がありました。しかし中身をよく見ますと、ベトナムが圧倒的に多く、フィリピンのものは、(0)と云う成績も出ています。戦争中の国は、どうしても予防衛生がおろそかになります。

戦乱もおさまったこれからは、その保菌率も低下するものと思います。赤痢はもともと人間の病気なのです。

捕獲直後のサルについての調査成績では、全頭(一)と云う結果が出ています。ですから、捕獲されてから、人から感染したものです。又、これらの赤痢は、適切な治療を行なうことによって、2~3日で治ります。

(結核) この病気は輸入のときより、人との永い生活によって感染するようです。治療すれば治ります。

(マラリア) これは、自然生活のサルにも少し侵入しているようですが、蚊の体内で発育して、人に伝染するのですが、媒介するハマダラ蚊の種類は、52種類に及んでいますが、殆んどが南方に生息しているもので、日本内地には、1種類しかいません。従って、南方からマラリアを患って帰国した人も多い筈ですが、内地で殆んど伝染が見られないわけです。

(トリパノゾーマ) これにも、人体に来るものと動物に来るものなど、8種類程あります。人体に来るものは2種類程です。動物は、交接によっても感染するものもありますが、人体のそれは、ツエツエ蠅が媒介の犯人で、この体内で20~30日かかって分裂してから感染します。このツエツエ蠅は、南方に生息して日本にはいません。以上のことから、ご安心願えると思います。

(ウイルス) これは、主にヘルペスウイルスです。これも人間のヘルペスを、サルが移されることが多いようです。中にはBウイルスと云う猿から、人が感染するのがあります。これも、1942年に発見されてから、31年間にサルに噛まれた人も多しと思われませんが、18例しか報告がないような程度です。

(黄熱病) 最近、ミドリザルが保有していることが分かりました。これに感染された方々24名は、サルを解剖しなくてはならない仕事を持った方々です。

樹上生活の多いサル達は、比較的清潔な環境に生活している動物です。未知の点も多くありますが、自然界で、人体感染菌に濃染しているとは思われません。人間に近い動物なので、人との生活が始まって、感染している場合の方が、多いのではないかと思います。これらは、捕獲され環境の急変に伴い、体力が一時低下したときに、感染するようです。

ペットとして、サルを飼育するには、やはり飼育する人が十分気を付けてやることは、人間共の責任です。

獣医さんに、十分健康診断を受けて下さい。

(動物園主査)

## ☆ 来年度の主な事業計画

48年度の新らしい動物園の事業計画として、ファミリー広場とお弁当広場、緑陰路の新設として、約2,100万円の予算が認められた。

これまででは、動物舎の新築ばかりであったのが一応一段落したということで、今度は、入園者サービスに、一段と力を入れることになったものです。

園内は、これまで緑が少なく、すわってお弁当も広げられる芝生もなかったのですが、園内の一部をこうした広場にして、市民の方々の期待にこたえようとするものです。

## ☆ 動物慰霊祭行なわれる

3月21日、一だんと春らしくなったこの日、園内の慰霊碑前で、動物慰霊祭が行なわれました。

動物代表として、オランウータンとライオンの子どもが、参加しました。

## ☆ チンパンジーの入園(予定)

3月の末に、チンパンジーが入園することになりました。これは、調教をして皆さんに、芸を見ていただくというものです。今いるチンパンジーは、もうすっかりおとなになってきましたので、舞台に立つことができなくなってきたのです。

来春にはきっと、芸をおぼえて、初舞台に立つでしょう。

## ☆ ダマシカの入園(予定)

4月2日、大阪市とサンフランシスコ市の姉妹都市提携、15周年を記念した、親善動物使節として、ダマシカ2頭が贈られてきます。

3月16日に、羽田に到着し、横浜の動物検疫所で検査をしていただくのですが、この日、都市提携委員会、大阪市などの盛大な出迎えをうけて、空路大阪入りします。

ダマシカは、ヨーロッパの地中海よりにすんでいる、大型のシカで、角がヘエジカのようにすんでいるのが特色、色は、茶色が多いのですが、今度来たのは、全身が白いものです。

しばらく日本鹿舎のとなり、仮住まいすることになっています。

## 動物好きのみなさんにおねがい

「キーウイ」のエサにミミズをください!!

万国博のとき、ニュージーランドからおくれた「キーウイ」のエサになるミミズを動物園では、園内で養殖していますが、今年は繁殖が少なくて困っています。どうか、ミミズを寄贈(きそう)して下さるか、ミミズのたくさんいるところを、下記のところまで教えて下さい。

(大阪市天王寺動物園 TEL 771-8401~2)

なきごえ 昭和48年3月15日発行(毎月1回15日発行) 第9巻第3号(通巻92号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所 / 株式会社 松村善進堂

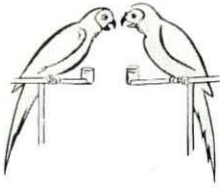
定価100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

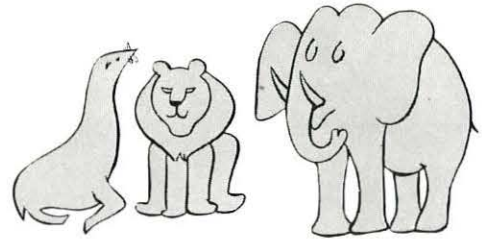
1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円

編集委員

〈入口富夫・林邦彦・大野尊信・加幡一男・米田敏光・樽本 勲  
田上 勝・中川道朗・農本武志・松岡恵爾・深井和美・東 政宏〉